



Nikon
100th
anniversary

株式会社 ニコン

2018年3月期 第3四半期決算報告

2018年2月8日

- 本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスクおよび不確実性が含まれます。このため、今後様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく異なる場合があることをご承知おきください
- 本資料で使用している数値は、億円未満は切り捨ててあります

1. 2018年3月期第3四半期決算報告

2. 2018年3月期通期見通し

Q3 実績

売上収益

- 前年同期比 **255億円の減収** (▲11%)
- 映像事業は、デジタルカメラの販売台数減少により減収
- 精機事業は、FPD・半導体露光装置の販売台数減少により減収

営業利益

- 前年同期比 **270億円の改善**
- 映像事業は、高付加価値製品注力が奏功して大幅増益
- 精機事業は、構造改革関連費用がなくなり大幅改善

当期利益

- 前年同期比 **163億円の改善**

Q1-3 実績

売上収益

- 前年同期比 **409億円の減収** (▲7%)
- 映像・精機事業ともに減収、FPD露光装置の台数減少影響が大きい

営業利益

- 前年同期比 **229億円増益** (+124%)
- 上期はFPD露光装置の販売台数減の影響で減益だが、3Qの映像・半導体装置事業の増益影響により、3Q累計では増益に転じた

当期利益

- 前年同期比 **81億円増益** (+57%)

2018年3月期 Q3 : 連結売上収益・損益



単位：億円	17年3月期 Q3実績	18年3月期 Q3実績	前年 実績比
売上収益	2,223	1,968	▲255
営業利益	▲86	184	+270
売上収益比	▲3.9%	9.3%	
税引前利益	▲81	189	+270
売上収益比	▲3.6%	9.6%	
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	▲79	84	+163
売上収益比	▲3.6%	4.3%	
FCF	340	622	+282
為替：USドル ユーロ	109円 118円	113円 133円	売上収益への影響
			+87
			営業利益への影響
			+16

2018年3月期 Q3：セグメント別業績



単位：億円

		17年3月期 Q3実績	18年3月期 Q3実績	前年 実績比
映像事業	売上収益	1,225	1,160	▲5%
	営業利益	83 (83)	162 (216)	+79億円
精機事業	売上収益	724	481	▲34%
	営業利益	▲106 (192)	84 (84)	+190億円
ヘルスケア事業	売上収益	132	140	+6%
	営業利益	▲7 (▲7)	▲10 (▲10)	▲3億円
産業機器・その他	売上収益	142	188	+32%
	営業利益	10 (10)	16 (21)	+6億円
各セグメントに配賦 されない全社損益	売上収益	—	—	—
	営業利益	▲67 (▲67)	▲68 (▲68)	▲1億円
連結	売上収益	2,223	1,968	▲11%
	営業利益	▲86 (212)	184 (243)	+270億円

注：営業利益の（ ）内数値は、構造改革関連費用を除いた値

2018年3月期 Q1-Q3：連結売上収益・損益



単位：億円	17年3月期 Q1-3実績	18年3月期 Q1-3実績	前年 実績比
売上収益	5,661	5,252	▲409
営業利益	185	414	+229
売上収益比	3.3%	7.9%	
税引前利益	214	403	+189
売上収益比	3.8%	7.7%	
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	142	223	+81
売上収益比	2.5%	4.2%	
FCF	514	692	+178
為替：USドル ユーロ	107円 118円	112円 129円	売上収益への影響
			+199
			営業利益への影響
			+47

2018年3月期 Q1-Q3：セグメント別業績



単位：億円

		17年3月期 Q1-3実績	18年3月期 Q1-3実績	前年 実績比
映像事業	売上収益	3,008	2,912	▲3%
	営業利益	231 (231)	316 (370)	+85億円
精機事業	売上収益	1,877	1,461	▲22%
	営業利益	145 (443)	285 (285)	+140億円
ヘルスケア事業	売上収益	372	392	+5%
	営業利益	▲13 (▲13)	▲31 (▲31)	▲18億円
産業機器・その他	売上収益	402	486	+21%
	営業利益	22 (22)	31 (36)	+9億円
各セグメントに配賦 されない全社損益	売上収益	—	—	—
	営業利益	▲200 (▲200)	▲187 (▲187)	+13億円
連結	売上収益	5,661	5,252	▲7%
	営業利益	185 (483)	414 (473)	+229億円

注：営業利益の（ ）内数値は、構造改革関連費用を除いた値

	17年3月期		18年3月期		前年実績比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
単位：億円						
売上収益	1,225	3,008	1,160	2,912	▲65	▲96
営業利益	83	231	162	316	+79	+85
売上収益比	6.8%	7.7%	14.0%	10.9%		
レンズ交換式 デジタルカメラ	105万台	247万台	85万台	216万台	▲20万台	▲31万台
交換レンズ	164万本	369万本	130万本	332万本	▲34万本	▲37万本
コンパクト デジタルカメラ	99万台	242万台	72万台	211万台	▲27万台	▲31万台

- Q3前年比**：9月に発売したD850の新製品効果が年末商戦や買替需要と重なる一方、計画していた販売経費は抑制できた為、営業利益は計画を大幅に上回る

	17年3月期		18年3月期		前年実績比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
単位：億円						
売上収益	724	1,877	481	1,461	▲243	▲416
営業利益	▲106	145	84	285	+190	+140
売上収益比	▲14.6%	7.7%	17.5%	19.5%		
半導体露光装置 新品／中古	7/1台	18/7台	3/3台	10/7台	▲4/+2台	▲8/±0台
FPD露光装置	24台	75台	14台	48台	▲10台	▲27台

- Q3前年比**：FPD装置事業は台数減少の影響は大きいですが、G10.5装置の初号機を計画通り販売。精機事業全体の営業利益は、サービス収支改善と半導体装置事業の固定費削減効果も加わり、計画以上に改善

単位：億円	17年3月期		18年3月期		前年実績比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	132	372	140	392	+8	+20
営業利益	▲7	▲13	▲10	▲31	▲3	▲18
売上収益比	▲5.3%	▲3.5%	▲7.1%	▲7.9%		

- Q3前年比**：生物顕微鏡は前年並みの売上を確保するも、米国の政府予算執行遅延の影響で計画には未達。網膜画像診断機器は計画通りに推移。バイオサイエンス・眼科診断の両分野ともに先行投資が増加して減益

単位：億円	17年3月期		18年3月期		前年実績比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	142	402	188	486	+46	+84
営業利益	10	22	16	31	+6	+9
売上収益比	7.0%	5.5%	8.5%	6.4%		

- Q3前年比**：産業機器は、半導体・電子部品・自動車関連業界の活況を受けて、画像測定システムが堅調に推移、営業利益はその他事業が好調に推移した影響もあり増益

1. 2018年3月期第3四半期決算報告

2. 2018年3月期通期見通し

2018年3月期 売上収益

- **全社見通しを100億円上方修正して7,200億円**
 - 主に映像事業の計画見直しにより上方修正

2018年3月期 営業利益

- **全社見通しは80億円上方修正して530億円**
(構造改革関連費用控除前 営業利益：620億円)
 - 映像事業では、中国工場閉鎖は計画通り進捗 Q3の大幅増益を受けて90億円上方修正
 - 精機事業は、主に半導体の収益改善が更に進み20億円上方修正
 - 産業機器・その他は、構造改革関連費用計上により30億円下方修正
ポートフォリオ経営推進の一環として一部事業を譲渡
 - コスト／投資を引き続き規律を持って厳しく管理していく

2018年3月期 当期利益

- **全社見通しは300億円を据え置く**
(構造改革関連費用控除前 410億円)
 - 産業機器・その他の構造改革関連費用40億円（10億円は税金費用）
および米国等の税制改革法に伴う税金費用の増加約30億円の影響を
増益によって相殺

2018年3月期 通期見通し：連結売上収益・損益



単位：億円	17年3月期 実績	前回予想 (11/7)	18年3月期 見通し	前年 同期比	前回 予想比
売上収益	7,492	7,100	7,200	▲292	+100
営業利益	7	450	530	+523	+80
売上収益比	0.1%	6.3%	7.4%		
税引前利益	30	450	520	+490	+70
売上収益比	0.4%	6.3%	7.2%		
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	39	300	300	+261	±0
売上収益比	0.5%	4.2%	4.2%		
FCF	566	250	600	+34	+350
為替：USドル	108円	111円	111円	売上収益への予想影響額 +195 +88	
ユーロ	119円	123円	129円	営業利益への予想影響額 +55 +24	

①年間配当金は31円（予定）

②為替のQ4レート見直し（ユーロ：120円→130円）

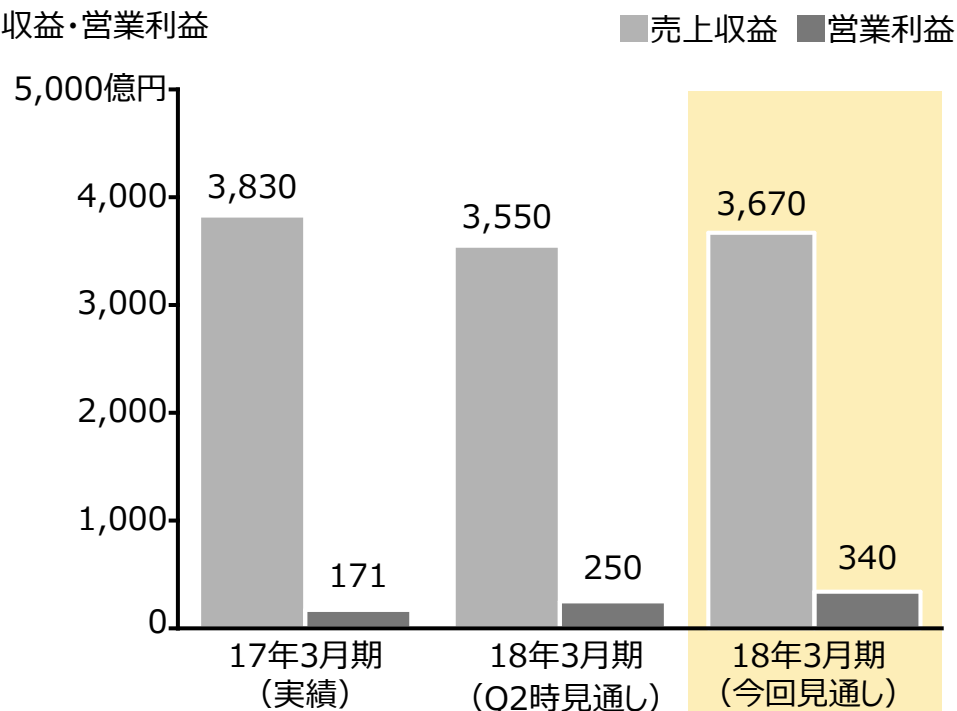
2018年3月期 通期見通し：セグメント別業績



単位：億円		17年3月期 実績	前回予想 (11/7)	18年3月期 見通し	前年 同期比	前回 予想比
映像事業	売上収益	3,830	3,550	3,670	▲4%	+3%
	営業利益	171 (281)	250 (310)	340 (400)	+169億円	+90億円
精機事業	売上収益	2,480	2,250	2,260	▲9%	±0%
	営業利益	134 (481)	470 (470)	490 (490)	+356億円	+20億円
ヘルスケア事業	売上収益	557	600	570	+2%	▲5%
	営業利益	▲6 (▲1)	▲40 (▲40)	▲40 (▲40)	▲34億円	±0億円
産業機器・その他	売上収益	624	700	700	+12%	±0%
	営業利益	37 (55)	50 (50)	20 (50)	▲17億円	▲30億円
各セグメントに配賦 されない全社損益	売上収益	-	-	-	-	-
	営業利益	▲328 (▲275)	▲280 (▲280)	▲280 (▲280)	+48億円	±0億円
連結	売上収益	7,492	7,100	7,200	▲4%	+1%
	営業利益	7 (541)	450 (510)	530 (620)	+523億円	+80億円

注：営業利益の（ ）内数値は、構造改革関連費用を除いた値

売上収益・営業利益



• 売上収益：120億円上方修正 前年比160億円の減収

- カメラ市場の縮小継続、各カテゴリーで販売台数減少
- 前回予想に対しては、Q3実績とQ4の計画見直しにより、120億円上方修正

• 営業利益：90億円上方修正 前年比169億円の増益

- 前期営業利益は、構造改革関連費用を除けば、281億円
- 今期営業利益は、構造改革関連費用を除けば、前年比119億円増の400億円
- 前回予想に対しては、増収による増益に加え、販売経費の効率化により、90億円上方修正

レンズ交換式デジタルカメラ (万台)

市場規模	1,177	1,100	1,100
ニコン	310	260	260

交換レンズ (万本)

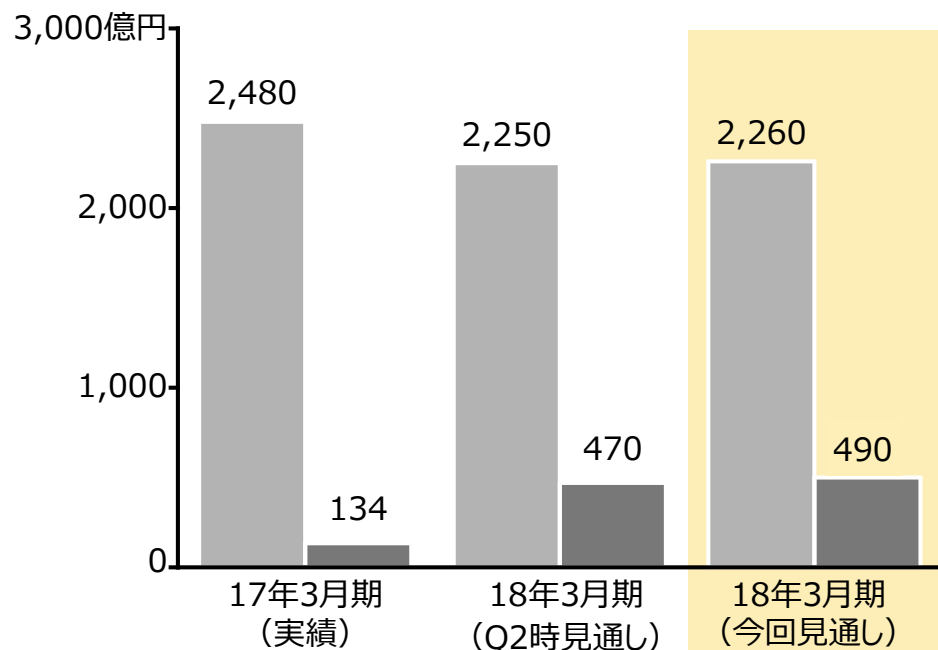
市場規模	1,920	1,800	1,800
ニコン	462	390	400

コンパクトデジタルカメラ (万台)

市場規模	1,260	1,140	1,140
ニコン	319	260	260

売上収益・営業利益口

■売上収益 ■営業利益



半導体露光装置販売台数 (新品/中古、台)

市場規模 (CY16/17)	17年3月期 (実績)	18年3月期 (Q2時見通し)	18年3月期 (今回見通し)
市場規模 (CY16/17)	210	210	240
ニコン	24/11	17/12	17/12

FPD露光装置販売台数 (台)

市場規模 (CY16/17)	17年3月期 (実績)	18年3月期 (Q2時見通し)	18年3月期 (今回見通し)
市場規模 (CY16/17)	128	150	149
ニコン	92	68	68

• 売上収益：10億円上方修正 前年比220億円減収

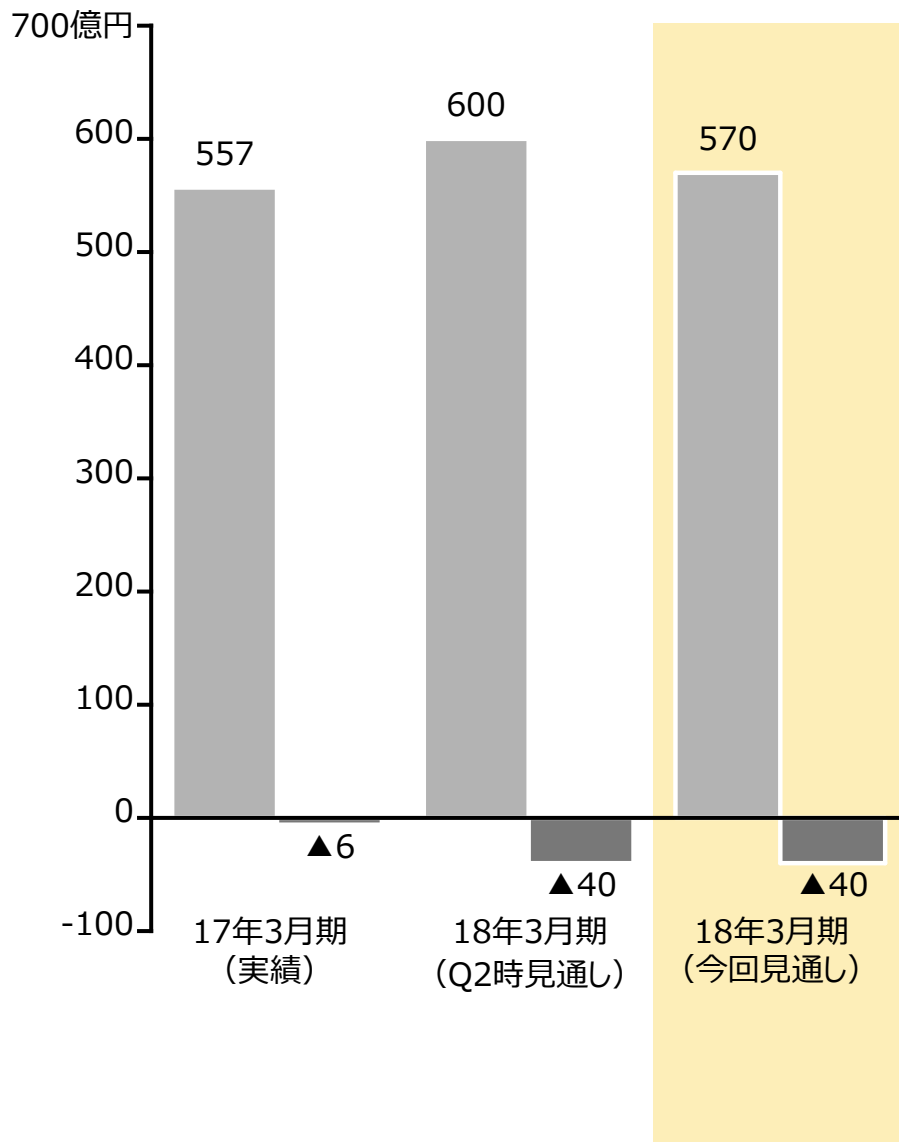
- FPD：台数減少にともない減収
G10.5装置の今期販売予定は3台
- 前回予想に対しては、半導体のサービス収益が計画を上回り推移しているため、10億円上方修正

• 営業利益：20億円上方修正 前年比356億円増益

- 今期は構造改革関連費用を除く前期営業利益481億円を上回る見通し
- FPD：減収影響に加え、製品ミックスの変化により減益
- 半導体：計画通り黒字を確保
- 前回予想に対しては、原価低減とサービス収益の改善により、20億円上方修正

売上収益・営業利益口

■売上収益 ■営業利益



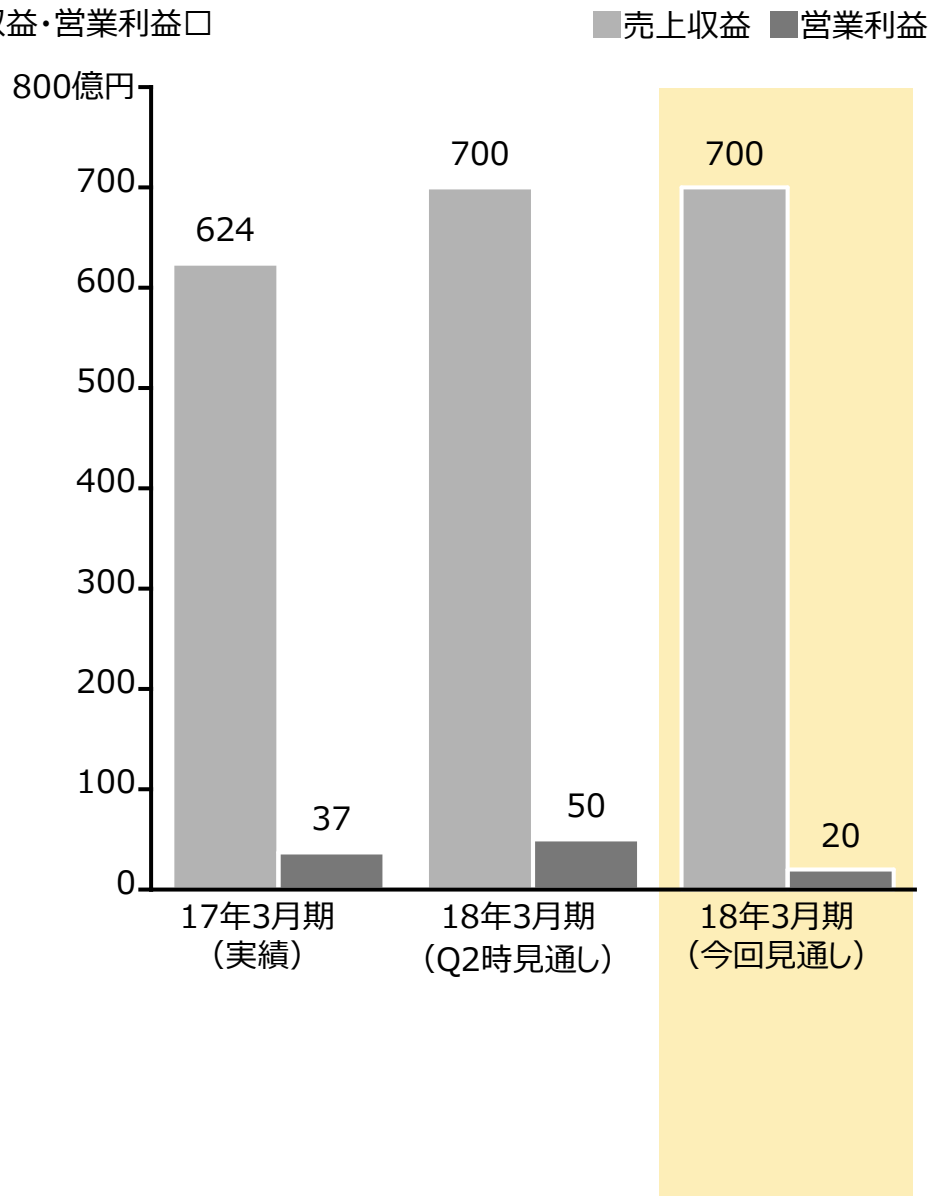
• 売上収益：30億円下方修正 前年比13億円増収

- 生物顕微鏡は政府関連予算執行遅れの影響等もあり30億円下方修正
- 網膜画像診断機器は計画通り推移

• 営業利益：前回予想据え置き

- 前期営業利益は、構造改革関連費用を除けば、▲1億円
- 前回予想に対しては、バイオサイエンス分野の減収減益影響があるものの、開発投資のずれ込みにより据え置く
- 長期的視点で利益成長の可能性を慎重に見極めながら、事業育成を継続

売上収益・営業利益口



• 売上収益：前回予想据え置き 前年比76億円増収

- 産業機器：自動車や電子部品関連分野で顧客の評価が高い製品中心に販売が拡大

• 営業利益：30億円下方修正 前年比17億円減益

- 前期営業利益は、構造改革関連費用を除けば、55億円
- ポートフォリオ経営の観点から、接触型の3次元測定事業からの撤退を決定
 - ▶ 市場／競合動向・製品競争力の観点から、より魅力的なセグメントに集中
- 今期営業利益は、構造改革関連費用30億円を除けば、前回予想と変わらず



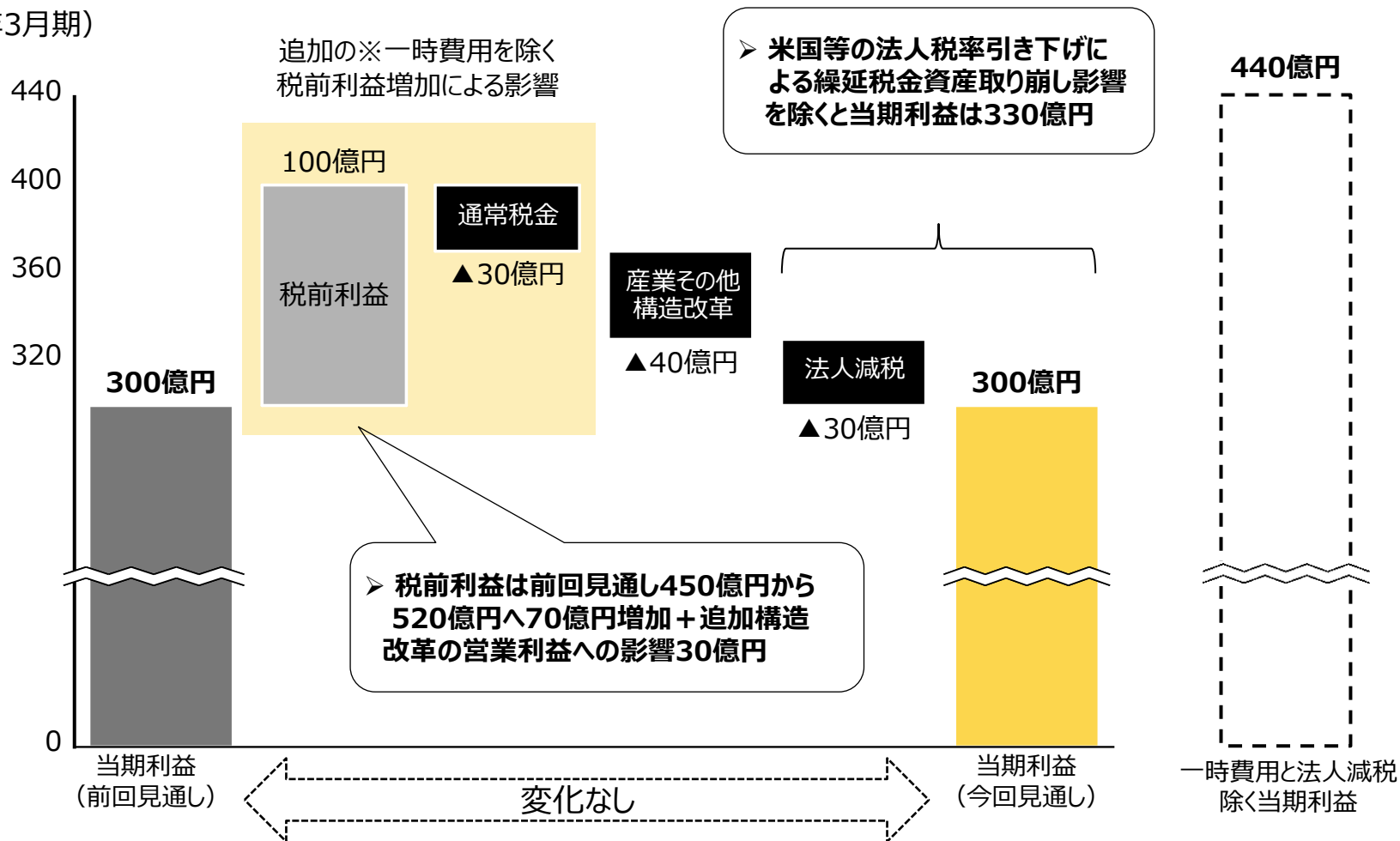
Nikon (th)
100
anniversary

NIKON CORPORATION

參考資料

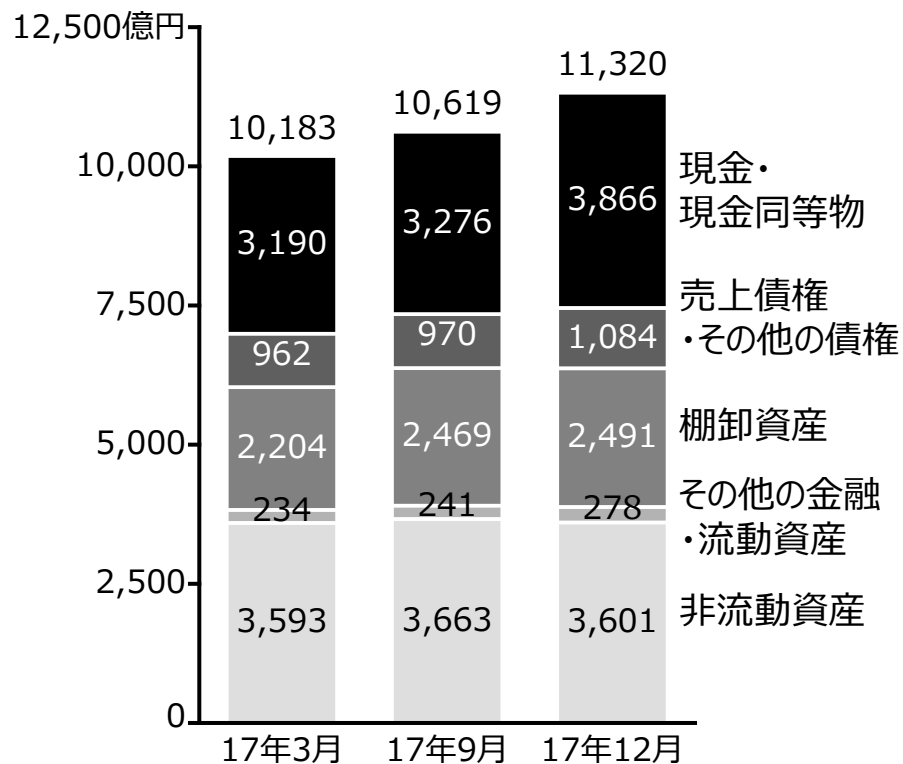
2018年3月期 通期見通し：当期利益の変化内訳

(18年3月期)

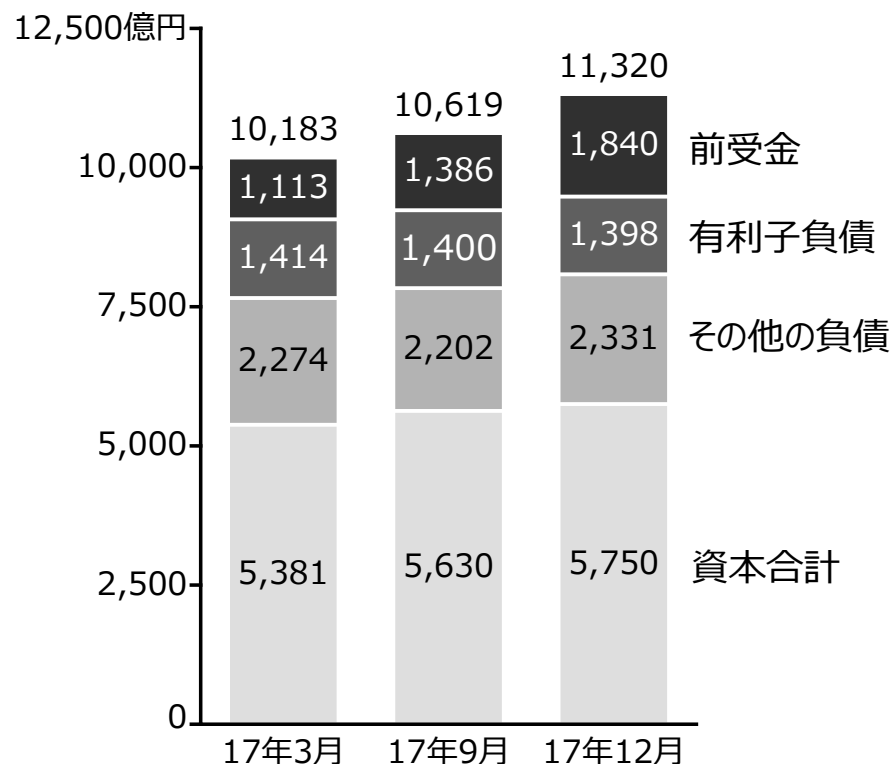


注：一時費用 = 構造改革関連費用▲110億円（映像事業▲70億円、産業機器・その他▲40億円）、今回見通しから追加は産業機器・その他の部分営業利益ベース▲90億円（映像事業▲60億円、産業機器・その他▲30億円）との差は繰延税金資産の取り崩し

資産

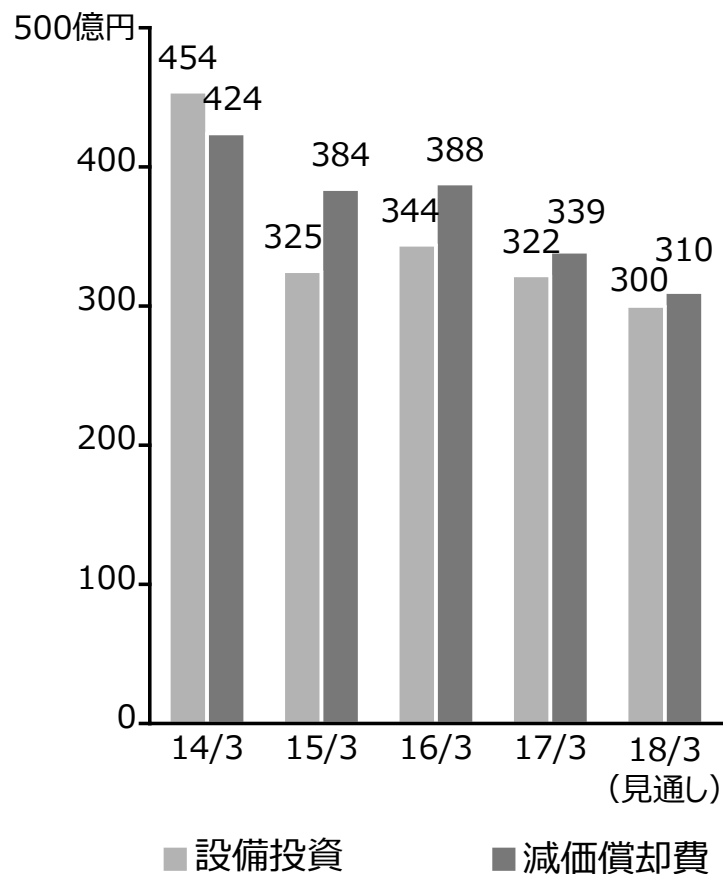


負債・資本

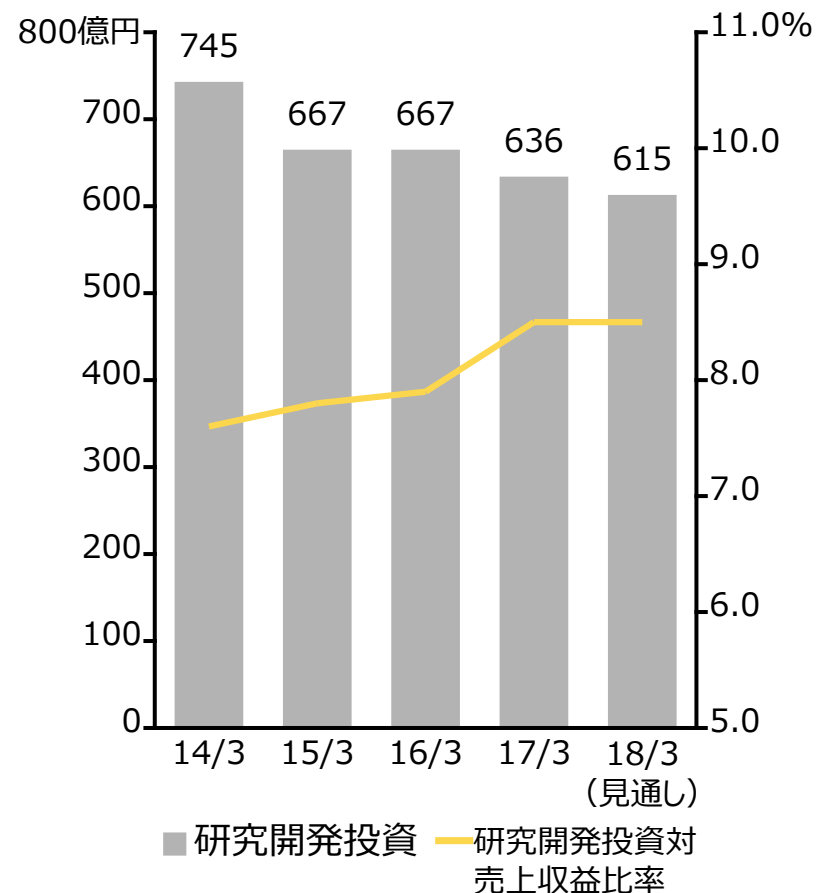


自己資本比率 52.8% 53.0% 50.7%

設備投資・減価償却費

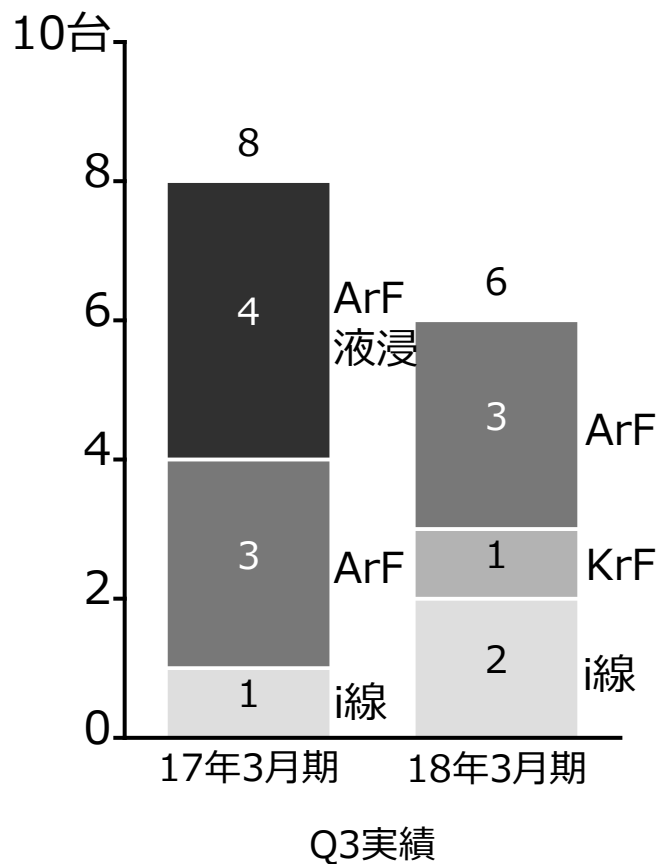


研究開発投資

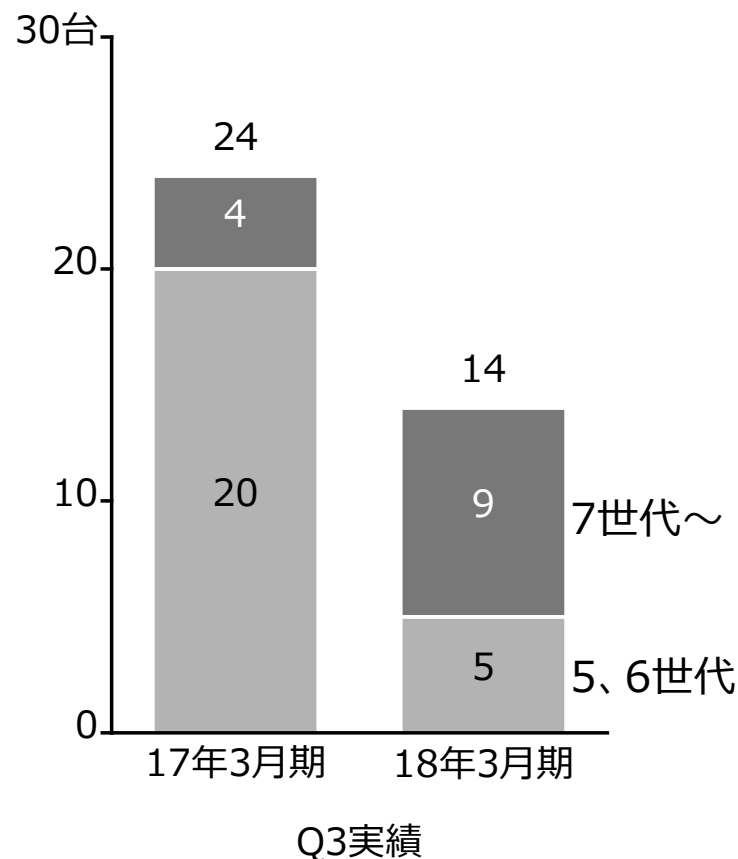


注：2015年3月期以前は日本基準、2017年3月期以降は国際会計基準（IFRS）で表示
 「減価償却費」は、2015年3月期以降コングループの減価償却方法を定額法に統一、2017年3月期以降は仕掛開発費の償却も含めて表示
 「研究開発投資」には、2017年3月期以降に行っている開発投資の一部資産化も含めて表示

半導体露光装置光源別販売台数 (中古含む)

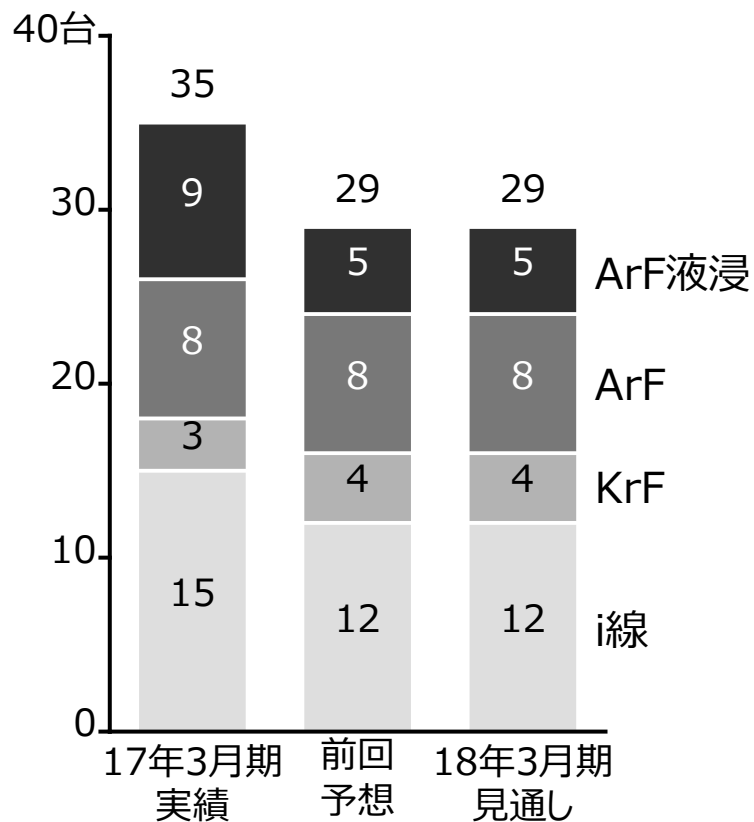


FPD露光装置世代別販売台数

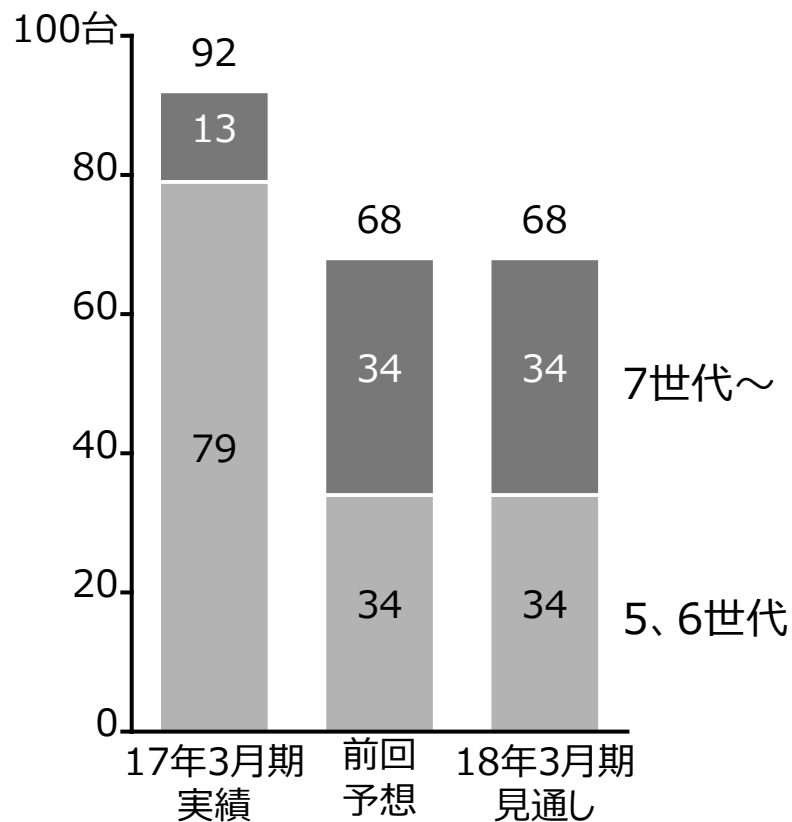


注：半導体露光装置の新品の台数は、2017年3月期Q3は7台、2018年3月期Q3は3台

半導体露光装置光源別販売台数 (中古含む)



FPD露光装置世代別販売台数



注：半導体露光装置の新品の台数は、2017年3月期は24台、2018年3月期は17台の見通し

	為替レート	1円の変動による影響額	
	18年3月期 Q4前提	売上収益 Q4	営業利益 Q4
USドル	110円	約6億円	約0億円
ユーロ	130円	約2億円	約1億円



Nikon (th)
100
anniversary

NIKON CORPORATION